

令和5年度第2回碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

日時 令和6年3月1日（金）

午後3時から

場所 市役所7階 議員大会議室

- 1 あいさつ（市長）
- 2 第2期碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進に向けて
- 3 碧南市のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進について
- 4 意見交換

令和5年度碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員一覧

No	所属団体名	所属団体役職名	氏名	備考
1	碧南商工会議所	専務理事	石川 央	
2	碧南市商店街連盟	会長	横山 茂	
3	あいち中央農業協同組合碧南地区	担当理事	原田 孝司	
4	大浜漁業協同組合	代表理事組合長	磯貝 政男	
5	中部地方整備局三の丸庁舎	企画課課長補佐	鈴木 眞也	
6	愛知県総務局総務部市町村課地域振興室	担当課長	金原 伸芳	
7	碧南市	市長	瀬戸田 政信	
8	四日市大学	学長	岩崎 恭典	
9	日本政策金融公庫岡崎支店	支店長	今成 潔	
10	碧南高浜金融協会	会長	岩間 孝史	
11	刈谷公共職業安定所碧南出張所	出張所長	小林 真人	
12	連合愛知三河西地域協議会	幹事	稲生 貴弘	
13	株式会社キャッチネットワーク	専務執行役員	天野 栄	
14	碧南市子ども子育て会議	会長	鈴木 政枝	
15	碧南市女性団体連絡協議会	会長	永坂 幸子	
16	市民公募		高須 里美	

第2期碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進に向けて

第2期碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進に向け、総合戦略に掲げた基本目標の分野に関し、以下の事業を実施してまいります。

基本目標1：しごとづくり

主な事業と概要【新規】

主な事業	概要
県営たん水防除事業（二艘入川地区）排水機場新設事業	排水機場を新設し、優良農地の保全と維持管理の軽減を図る。

基本目標2：新しい人の流れづくり

主な事業と概要【新規・再開】

主な事業	概要
巡回展開催事業	巡回展という形で企画することによって、著名な作家の優れた作品などを閲覧できる機会を提供し、市民の美術・歴史文化の向上を図る
矢作川堤防リフレッシュ事業（再開）	未供用となっている中畑橋から棚尾橋までの区間の暫定整備を行い、全線供用することにより、交通機能の向上を図る。

基本目標3：結婚・出産・子育て環境づくり

主な事業と概要【新規・拡充】

主な事業	概要
出産・子育て応援事業	妊娠から出産、子育ての期間に寄り添い支援をする「伴走型相談支援」と妊娠期の妊婦及び出生した子どもを対象として応援給付金を支給する「経済的支援」を一体的に実施。
産後ケア事業（拡充）	出産直後の母子支援として、一定期間、医療機関または助産施設等において、母体の休養や体力の回復、母体および乳児のケアを行うことにより、産婦等の心身の安定・育児不安の解消を図る。

基本目標4：元気あふれる地域づくり

主な事業と概要【新規】

主な事業	概要
水道事業負担金繰出事業（基準外）	エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者や事業者に対し、市独自の支援として実施する水道料基本料金の免除に要する経費について、水道事業へ繰出を行う。
南部市民プラザ大規模改修事業	老朽化のため不具合が出ている外壁・屋根の防水・設備等を改修し、建物の長寿命化を図る。
棚尾公民館臨時事業（棚尾公民館昇降機改修）	棚尾公民館昇降機の改修を行う。
保健事業と介護予防の一体的実施事業	保健事業と介護予防事業の取組みを一体的に実施することにより、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができる期間の延伸を図る。
情報システム標準化対応事業	自治体業務のうち国が定める20業務について、全国統一の標準仕様に準拠したシステムへ移行する。

資料 2

碧南市のDX（デジタル トランスフォーメーション） 推進について

CONTENTS

- 01 : DX部署の設立**
- 02 : 生成AIの活用**
- 03 : システムの標準化**
- 04 : その他DXツール**

01：DX部署の設立

デジタル社会の実現に向け、行政運営のデジタル化の促進による事務の効率化や合理化を図り、より一層の市民満足度と利便性の向上のため、経営企画課内にデジタル推進室デジタル係を新設します。

経営企画課	デジタル推進室	デジタル推進係	(1) DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進及び調整に関すること。
			(2) 情報処理システムの構築及び運用管理に関すること。
			(3) 情報セキュリティに関すること。
			(4) 情報処理システムの利用に関する庁内調整に関すること。
			(5) 行政手続のデジタル化の推進に関すること。
			(6) 地域情報化に関すること。
			(7) 社会保障・税番号制度の総括に関すること。

02：生成AIの活用

生成AIとは？

さまざまな成果物（文章や画像等）を生成できるAIのことです。

従来のAIが決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成AIはデータのパターンや関係を学習し、新しい成果物を生成することを目的としています。

代表例：ChatGPT（OpenAI）
Google Bard（Google）
Bing（Microsoft）

02：生成AIの活用

碧南市の取り組み

令和5年12月12日
NECネクサソリューションズ株式会社と連携協定を締結。
令和6年4月1日から共同検証を実施します。



02：生成AIの活用

碧南市の取り組み

【検証テーマ】

- 1) スポーツ推進計画等計画案の策定支援（スポーツ課等）
- 2) 条例・規程案等文書作成における校正・添削等支援（行政課等）
- 3) 集客施設イベントアイデア創出等支援（海浜水族館等）

03：システムの標準化

自治体システムの標準化とは？

日本全国の1,700以上ある自治体が独自のシステムを導入・運用することで発生している無駄なコストや非効率性を解消するために、令和7年度中に20業務のシステムを国が示す標準仕様に適合したシステムへ移行することを指します。

標準化対象業務（20業務）

1. 住民基本台帳	2. 選挙人名簿管理	3. 固定資産税	4. 個人住民税
5. 法人住民税	6. 軽自動車税	7. 国民健康保険税	8. 国民年金
9. 障害者福祉	10. 後期高齢者医療	11. 介護保険	12. 児童手当
13. 健康管理	14. 就学	15. 児童扶養手当	16. 生活保護
17. 子ども・子育て支援	18. 印鑑登録	19. 戸籍	20. 戸籍の附票

03：システムの標準化

システム開発・運用のコスト削減

システムが標準化され、自治体ごとに専用システムの独自の構築や運用が必要なくなりシステム開発・運用コストの削減やIT業務に携わる人材不足の解消が期待できます。

住民の利便性の向上

オンライン申請等の基盤を構築する取り組みでもあり、電子行政サービスをより充実させることが期待できると共に、異なる自治体同士での申請書の統一など住民の利便性の向上が期待されます。

必要経費（予定）

※経費は国から全額補助
（予定）

令和6年度

175,889千円

令和7年度

284,152千円

標準化に向けての碧南市の課題

- ・ 20業務以外の市独自事業の洗い出し、継続必要性の検討、決定
- ・ 市独自事業のシステム改修の有無、費用

04：その他DXの取り組み

碧南市で活用しているDXツール

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）

人がパソコン上で日常的に行っている作業を学習させ、代わりにプログラムが実行する仕組み。

AI-OCR

手書きの書類や帳票の読み取りを行い、データ化するOCRへAI技術を活用する新たなOCR処理

FAXのペーパーレス化

FAXでの送受信を電子で行うことにより、紙の削減を図る。

**引き続き碧南市はDXを活用し、
市民サービスの向上を目指してまいります。**